

“物と心の交流で友好を”

土曜市と近永日曜市が姉妹縁組



▲姉妹提携調印式の後、握手する両代表
▼市の特産品が並べられた土曜市コーナーは、大にぎわい



土曜日(中村朋子理事長)と愛媛県北宇和郡広見町の近永日曜市(毛利範男会長)との姉妹提携調印式が九月十六日、近永日曜市会場で行われました。

これは、今年二月に近永日曜市の一行が、土曜市を視察研修に訪れたことがきっかけで実現したもので、

広見町は面積一五三平方キロ、その八〇%が山林で、人口一万三千人の中山間地域。

近永日曜市は、昭和五十八年八月に商店街活性化の一環として開設され、毎月第三日曜日に開かれ

ています。

調印式には、南国市側から中村理事長、吉本助役、吉村雅男商工会長ら二十七人、広見町側から毛利会長、二宮義明助役、水野達郎商工会長ら四十人が出席。

まず提携までの経過を報告し、中村理事長と毛利会長が宣言書に調印、宣言文を朗読しました。

記念品の交換では、土曜市から尾長鶏の飾り、日曜市から鬼北鯉の大皿がそれぞれ贈られました。

続いて中村理事長が「マンネリ化していたが、一つの希望がわいてきた。今日からの一歩が自身の

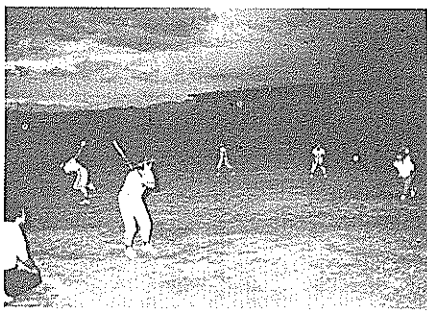
あるものにしていきたい」一方、毛利会長は「素朴さのある土曜市を見習って、地元の特産品を売り出し、地場産業の発展を」と、それぞれあいさつ。

この日は、土曜市コーナーを特設。早稲や芋やジャコ、切りもち、刃物などの特産物を販売、ほとん

ど売り切れるにぎわいでした。

また、夜は町の中心部を流れる奈良川の河畔で、地元の名物「いもたき」の宴が催され、両市町の関係者や町民もいっしょに、よきこい鳴子踊りを楽しみ、友好を深めました。

活性化に役立てようと張り切っています。



試合に備え、練習に汗を流すママさん

消費者的との連帯をよりいっそう深めようと、土曜市の出店者と消費者、商店の婦人がママさんソフトボールチーム「土曜市クラブ」(浜田英城監督)を七月に結成。

中村朋子理事長ら十五人のメンバーで、年齢は幅広く、二十一歳から五十二歳まで、学生時代の経験者もいますが、ほとんどの人がソフトボールは初めて。

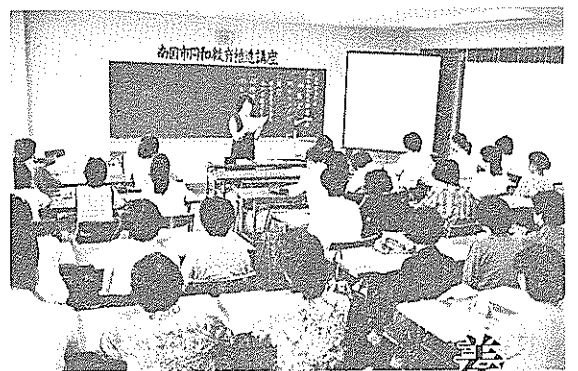
「家族ぐるみで親ばくを深め、消費者との輪を広げたいです。姉妹市の近永日曜市とも親善試合をしたいですね」と、中村理事長。消費者と團結することで、市の

◎土曜市、近永日曜市姉妹提携16周年記念感謝祭

とき・10月20日(午前8時～午後6時)
ところ・土曜市会場
楽しい催しと秋の味覚がいっぱい、広見町特産品多数/

差別のない明るい社会を

同和教育推進講座がスタート



同和問題を正しく理解・認識し、部落問題の解消につとめよう」と、昭和五十八年度に続き、今年も九月二十日から「同和教育推進講座」が始まりました。

この講座は、十二月下旬まで月一、二回開かれ、全部で六講座が予定されています。

受講者は、市内各小・中学校のPTA、婦人会、公民館長など、

地域の社会教育の指導にあたられる方や、企業など職場で同和問題についてのリーダーとなる方が対象となっています。

初日の二十日は、県教育委員会の同和教育指導主事大崎まさみさんが「部落はいつ、だが、何のためにつくったか」と題して、部落の歴史について詳しく説明し、参加者はメモを取るなど熱心に聴

いていました。

私たちの住んでいる社会には、いろいろな差別や障害が見られ、特にその人の責任でない部落差別が、今も残っています。部落問題の正しい理解のもとに、一日も早い解決が望まれるところです。



「初ナイターを楽しむ

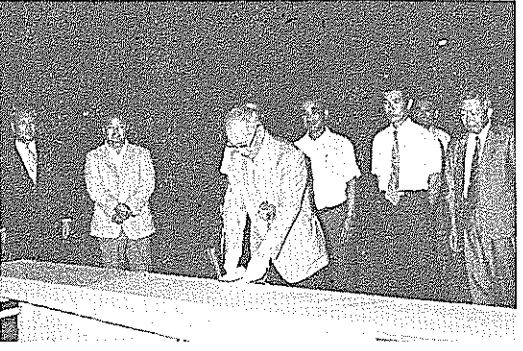
夜間照明設備が完成

社会体育の向上にと、設置が望まれていた大篠小グラウンドの夜間照明設備がこのほど完成、九月八日夜、点灯式が行われました。

この施設は、学校開放の一環として、市が国の補助を受けて、約四百四十万円を設置。市内の小中学校では三番目の施設です。

照明塔は四基で、一基に一、二つのハロゲンランプが四個ずつセットされ、グラウンドの内野付近の平均照度は二百%

点灯式には地元体育会など関係者約六十人が出席。浜田助役が照明設備にスイッチを入れ、と三千秒くらいで白色の光がグラウンドに広がりました。続いて、藤本教育委員長が「大篠小も今から光り輝いた。この中で心身とも健全に活動してください」とあいさつ。



地元体育会など60人が出席した点灯式

長しいへちま

◆篠原の弘末さん◆



これはびつくり長いへちま

背丈を越すほどの長しいへちま。篠原に住む弘末守治さんの庭には一・八メートルある大きなへちまが実り近所で評判となっています。

弘末さんは、三年ほど前に九州から種を取り寄せ栽培を始めたそう、昨年は台風の影響でやや少なめでしたが、今年見事に一・五メートルを超えるものが七本も実りました。

収穫は十月末ごろで、スポンジ代わりにしたり、へちま水を取ったり。昨年は、一升瓶に七本も取れたそうで、毎日使っている奥さんの顔はツルツルでした。